

Twinkle Lady's Cafe 第3例会議事

●記述日 平成26年 3月 7日(金)
●報告者 四国生産性本部 コンサルティング部 小笠原

●テーマ 「自分を見つめ直して、より良い明日へ向かう」
●開催日 平成26年 2月27日(木) 13:00~15:30
●開催場所 高松商工会議所 201 会議室

第1部 講演

日本生産性本部が1月31日に発表した『第5回「コア人材としての女性社員育成に関する調査」結果概要』によると、男性上司は、女性社員のキャリア意識に疑念を抱いているという結果が出ている。しかし、当研究会にご参加いただいている方を見渡す限り、このような状況ではないように感じる。そこで、実際に働く女性のキャリアについて確認し、もう一度、これからの人生について見直す機会にさせていただきたく、株式会社オフィスあん 代表取締役の松下直子氏をお招きし、キャリアについて検討した。

株式会社オフィスあん 代表取締役 松下 直子 氏

人間には、賞味期限がある。一生使える技術とか知識はない。例えば、私がグリコに入社したときに、営業で徹底的に訓練された技術がラベラーの技術だった。ラベラーとは、値札をつける技術で、すごく早くできた。それは、時間は奪いに行くのではなく、与えていかなきゃいけないからである。そのために早くできないと仕事にならなかった。しかし、すごく早く打てるあの技術は一瞬にして無駄になった。それは、バーコードが入ったからだ。そのとき、一生使える技術や知識ってない、と実感した。どうすれば、この技術を更新し続けられるのか、常に新しい自分を作り続けられるのか、という観点が必要だと痛感した。90歳を半分の方が超える時代において、どうやって自分を更新し続けたらいいのか。法政大学のキャリアセンター長に藤村教授は、「どんな時代でも必要とされる技術・知識は変わり続けるから、陳腐化していくから自分を更新し続けることはしなければならない。」と言っている。

この自分の賞味期限を延ばすためには、4点ほどある。1つは、そのとき必要なものは何なのかを見極める事、そして新しい事に挑戦し続けること、いつもとは違う場所に自分の身を置く事、である。それから何より人と話す事。1番効果のあるのは人と話す事なのでどう話せばいいのか、得意分野をもっと得意分野にして頂きたい。「傾聴が大事だよ」、「人の話聞きましょう」というレベルではなく、「訊く」テクニックを習得していただく。女性は比較的話の具体化が得意である。女性の強みを発揮して、具体的な訊き方を心がけて欲しい。コミュニケーションは長さではなく、カウントである。1時間の商談を1回するよりは、10分の商談を6回やった方が間違いなく人間関係は親密になる。

人間は絶対的にものを見ることはできない。結局、何かと比べている。私たちは、他社のことを積極性があるという、何でそんなことが言えるのか？過去、自分が出会ってきた人と比べて積極的だと見えるからである。相手に興味関心をもつことは、決して相手のためではなく、自分のためである。人間は自分の価値観の中で生きていて、そこからはみ出る人を理解できないと思うが、理解する必要も、受け入れる必要も無い。ただ、知れば世界が広がるのがわかる。結果、自分のためになる。自分が揺らがないでいられる、という意味でも、興味関心を持って聞いてほしい。

ところで、部下・後輩の育成は難しいと考えている人が多いようだ。なぜ、部下・後輩の育成が難しいのか、というと、「なんで前も言うたことがわからないのか」といらいらしたり、「果たして私の言い方が悪かったのだろうか」と悩んだり、結局のところ、人に向き合う時の難しさは、自分の感情を揺さぶられる難しさ、だといわれており、これが苦しさに繋がってくるのである。

なので、相手の気持ちを聞く以上に自分の気持ちをしっかりと自分が聞く力、「私は今、腹が立っている」とか「悲しい、と思っている」とか、これをきちんと自分が聞ける力の方が大事といわれている。そうすれば、こちらの揺さぶりは減る。

さて、意識という目に見えないモノは伝わらない。だから、意識を変えることは難しい。もし、私たちが人に対しても自分に対しても変えるモノがあったら意識ではなくて行動である。何か 1 つ行動を変えることで、結果として意識が変わっていく。

そこで、伝えるテクニックをお伝えしたい。それは、ナラティブというテクニックである。ナラティブとは、もともと、ナレーションとかナレーターの語源だが、直訳すると物語、その方の 1 日物語、人生物語であり、物語で語るというテクニックである。この物語の中に、その人のこだわりや価値観がある。

女性はコミュニケーションが上手である。男性と女性の能力差はないが、脳のつくりは違う。女性は、右脳と左脳をつなぐ脳梁が太く、男性は細い。なので、女性は、一度に多くのことを処理できる。とはいえ、男性と女性の一歩の違いは、子供の頃からの育ち方だと思う。それは、「男の子」として育ってきたか、「女の子」として育ってきたか、である。違いがあるからこそ、理解し合えないこともあるが、違うからこそ、学ぶこともある。だからこそ、興味・関心をもってほしい。

ワーク・ライフ・バランスとは、一生涯のバランスをとると考えた方がよい。そのように考えると、今、時間をどのように使っているのか、これから、その時間をどのように使いたいのか、を考えた方がよい。それが、命の使い方といえる。

キャリアデザインという考え方がある。夢の叶い方を考えるならば、最初に一番遠い未来の期限を考えると良い。そして、進行形で考える方がよい。そこから時間を遡って検討する。何歳の時に、どういう状態でありたいか、を描くのである。とはいえ、物事は逆転して考えると見え方も変わる。「デザイン」の対義語は「ドリフト」であり、「漂流する」ということである。つまり、いつもこうしたい、こうすべき、と考えるのではなく、流されるときがある方がよい。例えば、料理を考えてみると、作る物を決めて買い物に行くときもあれば、有り物を使って作ることもあるはずで、そんなときに新しい味に出会える。このように、「デザイン」するときもあれば、「ドリフト」のときがあっても良いのではないかと考える。「女性活躍」といわれているから、「頑張る」のではなく、自分で「今日は、頑張ろう」と決めたときに頑張るという程度で良いのではないかと。

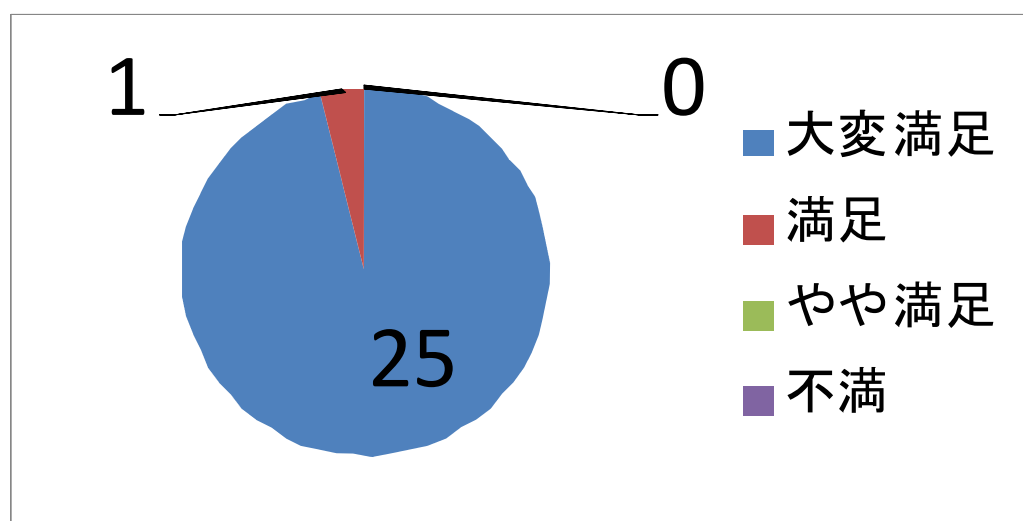
全く同じ経験をして、それぞれ受け止め方が違う。その受け止め方がその人らしさを作るといわれている。コミュニケーションの難しさは、受け止め方が違うことにあるともいえる。

小笠原コメント：

この講義では、“人生”という枠で仕事と生活を概観し、その中でどのような時間を使っていたいか、という切り口でキャリアを考えていただいた。「デザイン」と「ドリフト」の両面から考え、自分の意思で向き合うことが重要なのだと感じた。昨今、「女性活躍」の一つの側面として、女性の管理職登用が課題とされているが、これも全員が全員、目指す必要があるわけではなく、自分の価値観や希望に添って進めば良いのだと思う。まずは、“自分”を見つめ、自分が活躍できるポジションを見つけることが大切だと感じた一日だった。

事後アンケートの結果

質問1 今回の研究会の内容に対するあなたの満足度はいかがでしたか？



改善要望点

- 自分を見つめ直す機会がもてました。毎日の流れる日常の中で、このような機会を大切にしたいです。
- 松下先生のすばらしい話を聴けて幸せでした。
- 分かり易く具体的なお話で、自分の意識を変えていくことができると思う。
- 具体的な事例でのお話はとても分かりやすく、楽しかったです。「正解は決まっていない」「ドリフトでよい」救われた気がします。ありがとうございました。
- 具体的なお話が多く、わかりやすかったです。今後も機会がありましたらまた松下先生のお話をおうかがいしたいです。
- 講師の話を受講者で話し合いながら感じ取ることができるので、勉強になります。
- 他社の方々と話をして、いろいろな考え方を聞くことができた。先生のお話もおもしろく、わかりやすかったですので少しずつでも職場で実践したいと思う。
- むだのない話し方、親近感、わかりやすい例題、プロだなと感心しました。肩はらずに自然体で公私の人生を楽しみたいと思います。
- 先生の話が楽しかった。
- 人とのコミュニケーションを苦手に思ったり、人と会いたくないと思うこともよくありましたが、人のことを知るとどんどん世界が広がるということをきき、勿体ないことをしていたなと気づかされました。積極的に声をかけ、コミュニケーションを大切にしていこうと思いました。松下先生ありがとうございました。又お会いしたいです。
- 開始時間に間に合わず、1.2 ページの話がきけませんでした。人知るためには、1点集中型で、質問をする事でより深く、その人について知る事ができる事。自然とそのようなコミュニケーションになっているなと思いました。
- パワフルな先生で非常に気づきの多い研修だった。もっと研修を受けたかった。即実践は難しいが、少しずつでも取り組みたい。
- 会社ぐるみで取り組んでいた事が社員には受け入れられていなくて、なぜかとレジメ

を読むとダメであるとして書いてあり驚きました。会社に報告します。

- 短い時間でしたが、自身のキャリアについて改めて考えることができました。グループの皆様と色々と意見交換させて頂き有意義でした。
- 心に響く言葉がたくさんあり、とても貴重な時間を過ごすことができました。
- 業務上だけでなく1人の人間としてとても実りのある内容でした。
- 自分自身をみつめるよいきっかけになりました。社に持ち帰り、頂いたヒントを生かしていきたいです。良い刺激をうけました。
- 松下先生のお話、とても引き込まれました。(先生のようにしゃべりたい…)最近の職場でのストレスを発散することができました。気が楽になりました。
- 松下先生のメッセージが心にひびきました。
- 自分の事を見つめ直す、良いきっかけになれたと思います。(特に自分の時間の使い方など)
- コミュニケーション力をあげるために会話は必要だと思う。その人を知るための会話の方法が分かったので活用したいと思います。

質問2 「職場で働く皆さんがより活躍しやすい環境作りのためにどのようなポイントがあるか」というテーマにおいて、どのような内容の研究をしてみたいですか？

- 管理職と新人が同じ問題に取り組めるようなもの
- 私は子育ても落ち着きましたが、あの頃は大変でした。今、子育てと仕事で大変な方々のために研修をしてあげてほしいと思います。
- 制度とその運用の問題点。具体例。
- 女性管理職を1つの型にはめるのではなく、柔軟な登用の仕方がないか知りたいです。
- 女性が望むポイントと男性が望むポイントの違い・昇進、昇格を望まない女性もいると思いますが、それっていけないことでしょうか
- 仕事の中で男性社員は女性社員をどのように思っているのか。仕事の仕方、任せ方、能力等
- 女性が働きやすい環境と男性が働きやすい環境は違うのか
- 女性が多い職場のコミュニケーションについて
- 家庭と仕事の両立はどうすればよくできるようになる
- 雑談でコミュニケーションを高める事ができる、信頼関係も構築される事がわかりましたが、男性/上司/他社員に納得させるには？ 仕事では雑談するなという風潮がある為
- コミュニケーションスキルの習得・仕事と人生を楽しむ事を学ぶ場であってほしいと思います。
- 職場の方みんながお互いの事を知る事ができれば、働きやすい環境がつかれるのではないかと思います。
- コミュニケーション力・人材育成
- コミュニケーション力の向上
- 今回提示された男性の女性に対する意識の実態、変革の方法等
- 女性が働き続けるためには何が必要なのか、具体的なポイントを導き出される研究会をお願いいたします。今年度は3回全て参加させていただきました。いずれもとても有意義で楽しかったです。
- 女性が昇進や昇格を望んでいるんだということを管理職(男性)にわかってもらい、女

性の扱い方(使い方)を教えてください。

- 女性の活躍を女性社員だけでなく「自分のこと」として考える必要があると思います。そのためどうすればよいか話し合う事も必要だと思います。
- 短時間で上司・部下とコミュニケーションをとれる方法等をご教示頂きたいと考えます。

質問3 その他、研究会の運営などについてご意見、ご要望などありますか？

- 松下先生のお話とても熱く、しなやかな方で驚きました。とても楽しかったのと松下先生のようになれたらいいと感じました。
- 年度末は忙しいです
- とても和やかにフレッシュできる会でした。ありがとうございました。
- コーヒー等を準備してくださり心が和む場所を用意してもらいありがたかったです。他社の方とのふれあいもとても参考になりました。
- コーヒーがあったのが大変うれしかった。
- 来年は男性も交えてとお聞きました通りですが、女性だけでなく男性にもこのようなセミナーを受けられる機会を作って頂きたいと思います。男性の意識にも何か働きかけができれば良い方向に向かうと思います。
- 3 回とも参加させて頂きありがとうございました。他社の方とも交流を図れとても良かったです。
- 今回初めての参加でしたが、とても興味深く参考になりました。ありがとうございました。
- 今回もとても楽しく受講させて頂きました。有意義な時間をありがとうございました。
- ありがとうございました。大変お世話になりました。

事務局 反省事項

今回の例会が、平成 25 年度の千秋楽でした。継続的にご参加いただいている方を中心に非常に盛り上がった例会となりました。冒頭、私の方から「男性上司の意識」についてご紹介させていただきましたが、やはり、「女性の活躍」には、男性の意識の変化が欠かせない、と感じている次第です。そこで、平成 26 年度は、男性にも参加していただき、忌憚ない議論を交わすことで、お互いの意識のギャップを少しでも埋められれば、と考えております。

実際の所、「女性活躍」のかけ声は大きいものの、社会環境はまだまだついていない、と感じることも多々あります。また、「女性活躍」＝「女性の管理職登用」と短絡的な思考に陥っている組織もあるようです。もちろん、女性のみならず、男性にもいえることですが、キャリアの選択肢が増えれば、活躍の場は広がることでしょう。その結果、管理職登用があるのだと、この会を通じて改めて感じております。

平成 26 年度も、皆さまと共に、楽しく学べる場にしていきたいと思っております。なにとぞ、引き続きご参加下さいますようお願いいたします。

以上



松下講師と参加者の皆さま

※ 本来は皆さんで記念撮影すれば良かったのですが、ご参加いただいた一部の方のみとなりました。配慮が足らずに申し訳ございません。